

2023 年度 豊義会管外視察報告書

研修期間 2024 年 2 月 7 日（水）～2 月 8 日（木）

参加者 木谷敏勝、岡本昭治、小森弘詞、前田敦司、浅田 徹、
荒木慎太郎、芹澤正志、森垣康平、米田達也 計 9 名

| | |
|-------|--|
| 日 時 | 2024 年 2 月 7 日（水）午後 2 時 00 分～午後 3 時 40 分 |
| 視 察 先 | 大分県由布市 一般社団法人由布市まちづくり観光局 |
| 調査項目 | インバウンド観光の実態について |
| 調査内容 | 湯布院のインバウンド観光の現状と課題点に関する調査 【対応者】 一般社団法人由布市まちづくり観光局事務局長 生野 氏 |
| 所 感 | <p>由布院駅前に到着し、まず気になったのが駅前の外国人観光客の多さである。公共交通機関での来訪者の約 8 割がアジア系インバウンド来訪者との事で、駅前の通りから約 800m先に位置する観光バス駐車場に向け、飲食店を中心とした観光店舗が並ぶ。</p> <p>ただ、その看板表記はほとんどが日本語のみの表記となっており、その理由を聞くと、由布市としてはインバウンド観光を戦略的に取り組んできたわけではなく、韓国を中心としたアジア諸国が近い事や SNS による情報拡散などが起因となり、地域としては予期せぬ来訪者増加となり、下水整備などの公共工事も含め対応が追い付いていないとの事。</p> <p>さらには、その観光客の増加に目を付けた地域外からの観光産業経営も増加し、現在では観光店舗経営者の約半数程度しか観光協会へ加盟していない事にも会話が広がり、まちづくりに関する会議などの運営に支障をきたしているほどの現状と受け取れる。</p> <p>来訪者数をみても、年間約 400 万人に対して 300 万人が日帰り観光となり、「歓楽街を廃し、ゆったりとした時間が流れる雰囲気」のある宿場としての湯布院という印象ではなく、インバウンド観光に振り回され、地域の想定外である「若者が多く、にぎやかな湯布院」になってしまった。という印象が強く残る視察となった。</p> <p>本市においても観光産業は重要な地場産業といえるが、インバウンド観光に関するプロモーションと、事業主同士の連携が希薄になる事に対する危機感を再確認し、今後の観光戦略を注視していきたい。</p> |





| | |
|-------|---|
| 非 時 | 2024年2月8日(木) 午前11時00分～午前11時30分 |
| 視 察 先 | 大分県大分市 iichiko 総合文化センター |
| 調査項目 | 総合文化センターの実態及び運営状況について |
| 調査内容 | <p>【対応者】 公益財団法人大分県芸術文化スポーツ振興財団 大分県立総合文化センター/大分県立美術館/おおいた国際交流プラザ 施設課長 賀来 真 氏</p> <p>【概 要】 大分市は、大分県の中部に位置する市。大分県の県庁所在地で、中核市に指定されている。人口では、大分県内および東九州で最多、九州では福岡市、北九州市、熊本市、鹿児島市に次ぐ第5位で人口約47.8万人。 iichiko 総合文化センターは、国内外のアーティストによる舞台芸術の鑑賞の機会を提供するとともに、県民の多様な文化活動を支援する施設とする県立の総合文化センターである。5年間指定管理として、県100%出資の(公財)大分県芸術文化スポーツ振興財団が管理・運営を行っている。 施設としては、メインホール「グランシアタ」客席数1,966席、セカンドホール「音の泉ホール」客席数710席、その他リハーサル室や会議室を多く有した総合文化ホールである。大規模な講演、コンサートからまちのサークル活動の拠点としても活用されている。客席数710席の「音の泉ホール」は音響性能にすぐれ、ピアノや管弦楽など特に音楽系の公演に使われ、高い評価を受けている。公演規模が大きいケースが多く、準備期間などの関係からメインホールの方が稼働日数は多くなっている。 1998年竣工の施設は老朽化が進み、天井や設備の大規模修繕のためにホール部分は長期休業中である。リハーサル室や大小練習室、会議室の貸館業務は継続されている。 国道を挟んだ反対側には、大分県立美術館(OPAM)が2015年に開館し、渡り廊下で結ばれ、一体運用することによって文化・芸術の中心として県内外に発信されている。</p> |
| 所 感 | <p>710席を有する「音の泉ホール」は音響性能に優れ多くのアーティストが評価し、演奏を行っている。県内の学生演奏家は、このホールで演奏することを目標としており、文化・芸術の「憧れの場所」になっていることの説明が印象であった。性能・機能的に優れた施設は、人を惹きつけ、憧れの場ともなり得ることに触れ、本市における文化・芸術の振興の観点からも、十分な施設整備が望ましいと感じた。ただ、老朽化は避けられず、大規模修繕の難しさや困難さも垣間見えた。大規模施設の使用については長期的な計画と運営が重要であると感じ、本市における対応についても本視点を活かしていきたい。</p> |



| | | | | | | | | | | | |
|-------|---|-------|--------------------------|-------|-------------------------|-------|--------------------------|-------|----------------------|-----|-------------------|
| 日 時 | 2024年2月8日(木) 午後1時30分～午後3時30分 | | | | | | | | | | |
| 視 察 先 | 大分県別府市 一般社団法人別府市観光協会 | | | | | | | | | | |
| 調査項目 | 別府市の観光の実態と施策について | | | | | | | | | | |
| 調査内容 | <p>別府市における観光の実態と観光に対する施策・課題点に関する調査</p> <p>【対応者】 別府市観光協会 専務理事 伊藤 慶典 氏</p> <p>【別府温泉の観光基礎情報】</p> <p>(1)産業従事者数 第3次産業(サービス業)を中心とした従事者数が約45,000で、その内92%が観光産業従事者である。</p> <p>(2)有料宿泊施設数 ホテル・旅館 254施設、簡易宿泊 49施設、下宿 1施設 計304施設</p> <p>(3)観光協会加入数 110件(加入率 約36%)</p> <p>(4)温泉施設数 ①市営温泉数 17施設、私有区営温泉数 70施設、別府八湯 8施設 ②温泉源泉数 2,856(日本一)</p> <p>(5)温泉湧出量 毎分102,975ℓ(日本一)</p> <p>(6)観光客数(2022年) 総観光客数538万人、日帰客数 344万人(内日本人343万人)、宿泊数 194万人(内日本人 191万人)</p> <p>(7)宿泊客の順位 ①九州・沖縄 ②関東 ③中四国 ④近畿 ⑤海外</p> <p>(8)一人当たり観光消費額</p> <table border="0"> <tr> <td>日本人宿泊</td> <td>27,286円(総額 52,940,287千円)</td> </tr> <tr> <td>日本人日帰</td> <td>5,146円(総額 29,716,771千円)</td> </tr> <tr> <td>外国人宿泊</td> <td>22,734円(総額 11,482,602千円)</td> </tr> <tr> <td>外国人日帰</td> <td>4,023円(総額 465,686千円)</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>(総額 97,605,356千円)</td> </tr> </table> <p>【別府温泉の課題】</p> <p>(1)老舗ホテル・旅館とは別に、最近では新興ホテル・旅館が進出してきているなか、観光協会加入率が約36%と低いことによる地域連帯意識が薄いため、地域全体での施策の実施に苦慮している。</p> <p>(2)市内商店街施設および観光施設の老朽化が著しくなっているが、経営撤退や関係者間の合意形成が進んでいないため改善・改修が進んでいない。</p> <p>(3)タクシーなど、公共交通機関の運転手の減少が著しいため、観光客の移動手段確保に苦慮している。</p> <p>(4)コロナ禍の影響による総観光客数の減少対策が必要 2019年(令和元年)の833万人から2022年(令和4年)の538万人へ減少</p> | 日本人宿泊 | 27,286円(総額 52,940,287千円) | 日本人日帰 | 5,146円(総額 29,716,771千円) | 外国人宿泊 | 22,734円(総額 11,482,602千円) | 外国人日帰 | 4,023円(総額 465,686千円) | 合 計 | (総額 97,605,356千円) |
| 日本人宿泊 | 27,286円(総額 52,940,287千円) | | | | | | | | | | |
| 日本人日帰 | 5,146円(総額 29,716,771千円) | | | | | | | | | | |
| 外国人宿泊 | 22,734円(総額 11,482,602千円) | | | | | | | | | | |
| 外国人日帰 | 4,023円(総額 465,686千円) | | | | | | | | | | |
| 合 計 | (総額 97,605,356千円) | | | | | | | | | | |

所 感

別府温泉は、大分県別府市に約 100 ある温泉の総称で、特に古くから由来の 8 つの温泉地は別府八湯と呼ばれており、規模や内容は比較にならないくらい大きいですが、城崎温泉という外湯（七湯）と同じ役割を果たしている。

別府温泉までの移動手段は、鉄道やフェリー、高速バス、路線バス、タクシーによる公共交通サービス施設等の送迎サービスなど、拠点都市としてさまざまなサービスが提供されているため、年間観光客数（2022 年統計）で、総観光客数 538 万人、日帰客数 344 万人、宿泊数 194 万人と多く、温泉都市として全国的に有名で、源泉数・湧出量ともに日本一を誇っている温泉地であることが実感できた。

また、観光協会が行っている観光客の誘致に向けての施策は、活発に行われている様子が説明から感じられた。

更に、最近では新湯治・ウェルネスツーリズム事業と称し、温泉施設や旅館・ホテル、運動施設・リラクゼーション施設および飲食店などと、研究・実践拠点をコアとして、市内事業者のポテンシャルを活かした連携により、別府全体で取り組む「新たな価値の創造」事業に取り組まれていることは、注目に値する。

なお、華やかで多くの観光客が来られている別府温泉であっても、いくつかの課題があり、対応に苦慮されていることをお聞きできたことは、豊岡市における観光施策の参考になると感じた。視察研修の成果を市内観光産業の振興に活かしていきたい。



